

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>家族の一員として、地域の中でその人らしく生活してほしいと考え理念に掲げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念の共有と実践にむけて、日々、ケアの中からその人らしく生活するために必要な事をミーティング・勉強会等で話し合う場を設けている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>事業所内に、利用者や家族が見やすい場所に理念を掲示している。</p>	<p>今後地域の理解と信念の浸透を働きかけていきたい</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>管理者や職員・利用者は、日々の散歩等で隣近所の方々と交流できている。事業所としては、地域の一員として地域活動に参加できていない。</p>	<p>今後、地域の町内会・民生員等と連携をとり、自治会・老人会等の行事に参加していく方向で検討している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>全職員の質の向上の一つとして、外部研修等で得た知識を勉強会等で学ぶ場を作りたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、利用者・家族にホームの方針や取り組みを説明し納得した上で契約して頂いている。</p>	
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が意見を話しやすい雰囲気を作り、利用者が発した何気ない一言も重視するよう取り組んでいる。</p>	
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に利用者の状況を細かく報告している。遠方で面会の機会の少ない方には、電話で近況を報告している。</p>	<p>ホーム内での様子・活動状況がわかるよう、新聞を2～3カ月に一回発行するようになりたい。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時、家族等が意見を言いやすいようこちらから働きかけたり、意見を記入する用紙を作成し設置している。</p>	
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度のミーティング・勉強会・リーダー会議等で職員からの意見・苦情を話す機会を設けている。でた意見は、反映していくようにしている。</p>	
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者に合わせた勤務調整をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を重視し、職員の移動は最小限にするように配慮している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>必要とされる研修は積極的に参加するようにしている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は同業者との交流や連携を通じて日々のサービス向上や職員育成につなげるための取り組みをしている。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>悩み等は管理者・リーダーが対応し軽減を図っている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は職員個々の実績や努力を把握し、各自がやりがいをもてる職場環境となるよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時には本人・家族の話を受容的態度で傾聴するようにしている。その際、求めている事を聞き出すよう配慮している。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者の視点に立ち、今必要とされる支援は何か早期に見極めるように努力している。」</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の生活暦を考慮し、本人が安心して暮らせる場を本人の関りのなかで構築できる工夫をしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の立場に立ち物事を考えるようにしている。生活のパートナーとして喜怒哀楽を共有し、頼りになる存在になるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人を支える関係を築けるように、良き理解者・相談相手になるようにしている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係が途切れぬ様に連絡を密に取るようにしている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れぬよう、支援に努めている	家族と連携をとり本人の希望に応じて馴染みの人や場に出かけられるよう支援している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が孤立しない様に職員が間に入って関り、コミュニケーションがスムーズに図れるよう支援している。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係が途切れぬよう必要に応じて相談はいつでも受けられる体制をとれるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の思いを重要視し意見の把握に努めている。本人の意向が困難な場合は家族の意向を取り入れている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>今までの生活歴の把握に努めその人らしく生活できるよう情報収集に努めている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人ひとりの一日の行動パターンを記録し、日々感じた事をスタッフ全員が共有出来るように申し送りをしている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者本位のケアプランを立てられる様職員全体がチームとなり意見交換しよりよいプランを立てられる様努力している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的にプランを見直している。変化が生じた場合はケア会議を行い、その都度見直しをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランにそった実践・結果・様子を個別記録に記載し情報を共有し、本人にとってよりよいプラン作成の見直しに活かしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>その都度要望に応じられるよう努力している。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>法人の協力を得てマイクロバスを利用し、ドライブ・買い物等に参加している。</p>		<p>地域のボランティア・諸機関と協力し利用者に刺激を与える場を提供していきたい。</p>
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>必要に応じて事業所以外のケアマネと連携を図るようにしているが、利用者より希望がないため支援に至っていない。</p>		<p>すぐ活用出来るようにネットワーク作りを図っていきたい。</p>
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>解決出来ない困難事例がまだないため、地域包括センターとの協働はまだおこなわれていない。</p>		<p>地域包括センターと協働し必要とされる時に対応できる様関係を作りたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を重視し、かかりつけ医を受診し適切な医療を受けられるよう支援している。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師との関係を築いていない		認知症専門医との関係を築き、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるようにしたい
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の職員が配置されており、随時健康管理が行われている。必要時は受診している。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	馴染みの場所へ早期に戻れる様医療機関と密に連絡をとり情報交換している。医療連携室と連携体制をとっている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時終末期をどこでむかえたいか聴取している。状態変化のあった場合は、その都度話しあっている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が希望する終末期をむかえられる様に事業所が「出来ること・出来ないこと」を見極め話し合いをし、よりよい支援に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ダメージができるだけ最小限になるよう利用者の情報をまとめた上で慎重に行っている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩としての尊敬の気持ちで適切な呼びかけ・声かけをしている。利用者のプライバシーに配慮し、個人情報は適切な場所に保管されている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>家族からの情報や利用者との日々の関わりの中で希望の把握に努めている。意思表示の出来ない利用者でも、表情や態度から把握するよう努め、事故決定を促すよう積極的に取り組んでいる。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースにあわせ、利用者の訴えを優先しどのように過ごしたいか希望にそえる支援が出来る様努めている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>一ヶ月に一度ホームで理髪をしている。本人が希望される時は今まで利用してきた美容院等へいけるよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を活かせるよう食事の下ごしらえ片づけ等を一緒に行っている。食事が楽しいものになるように利用者の好みを取り入れたものを作ったりしている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好み のものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽し めるよう支援している	利用者の嗜好を把握し、状況に合わせて生活の中 に取り入れ楽しめる様に支援している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持 ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行いパターンを知ること で事前にトイレ誘導し、トイレで可能な限り排泄 できるよう支援している。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわ ず、一人ひとりの希望やタイミングに合 わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に希望のない方は曜日を決めて決 まった時間に入浴されているが、希望 があればできる限り希望時間に入浴 できるよう体制はできている。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ちよく 休息したり眠れるよう支援している	利用者のその日の状況に応じて適 宜休息を取り入れるようにしている。 眠れない利用者に対しては温かい 飲み物・足浴等で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、楽しみごと、 気晴らしの支援をしている	利用者が出来ること、していたこ とを把握し日常生活の中で取り 入れ、促し支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーで買い物をする機会を設け、自分で支払える方は支払いを支援している。金銭管理出来ない利用者には、スタッフが代理している。		金銭管理が出来ない利用者にもお金を持たせ、支払いし、自分でお金を持ち買い物する事の楽しさを思い出させる支援をしたい。
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日等は利用者の体調を考慮しながら荘外の散歩を行っている。季節を感じとれる様声かけをし刺激を与えるようにしている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望にそえる様家族と相談しながら実現出来る様支援している。行きたい場所があれば、馴染みの仲間数人で出かける機会を作り支援している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者にくる電話や手紙は歓迎し家族にも利用可能である事を伝えている。手紙を読めない・書けない利用者には読んであげる。一緒に手紙を書く等の支援をしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者と家族が居心地よく過ごせる様雰囲気作りを行っている。何度でも足を運んでもらえる様、来荘時の明るい声かけ・対応には常に心がけている。		家族が宿泊を希望する場合、現時点では場所がない状況にある。遠方の家族が安心して泊まれる様な場の確保を検討する必要がある。
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという姿勢でケアしているが、やむおえず身体拘束をしなければならない場合は家族へ同意を得るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム周辺の立地場所に、川・崖があり鍵をかけているが、開放する時間を設け利用者が出る場合は必ずスタッフが見守り出来る様体制がとられている。		正面玄関へアラーム等を設置し外へ出たことがわかる対策をし、鍵をかけないケアに取り組んでいきたい。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員は利用者を見守ることが出来る様安全に配慮がなされている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じて、ナイフ・洗剤等の管理は行うようにしている。個人で管理可能な物も目配りを忘れないように努めている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	内・外部研修で学び、事故防止に取り組んでいる。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会を設け、看護師より、急変時の対応処置の仕方を定期的に学んでいる。AEDを設けている。		AEDを設置したが全ての職員が機械の取り扱いを学んでいない。12月中旬に消防によるAED講習の機会を予定している。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	災害時に適切な避難誘導が行える様、職員・利用者が定期的に訓練している。		地域の人々との協力体制が確立できていないため働きかけをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	その人らしい生活を送るために起こりうるリスク、病気に対するリスクについて十分に家族に説明した上で対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に観察し変化や異常の兆候があった場合、記録に残し、看護師へ報告し必要に応じて医療機関へ相談する等対応している。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に内服が出来るよう服用まで3回確認してから服用させている。個々の薬の情報は個人記録にファイルされている。変更時は申し送りが必要で全員が把握できるようにしている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多く含まれた食材の工夫や適度な運動・腹部マッサージ・早朝の冷たい飲み物の服用により腸を刺激する等の対応を実践している。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の声かけ・誘導にて行われている。仕上げ・チェックは職員が行っている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況に応じて食事摂取量・水分摂取量をチェックしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は、利用者・職員全員が行っている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に使用したものはきれいに洗浄し、夕食後に消毒・し厨房内も清掃し、消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム入り口に掲示板を設置している。玄関入り口に看板を設けはiriやすい雰囲気を作っている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を楽しんでもらえるように空間の配慮をこころがけ心地よい環境の工夫に努めている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が話しを出来るテーブル配置にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使用していた家具や、思い出の品、持ち込んでもらうようにしている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>利用者の生活を主体に考えながら温度調整・換気・不快な臭いの対応に努めている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すり、流し台等使いやすく配慮している</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>利用者一人ひとりの能力に応じて、出来るだけ一人で生活できるように支援している。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物外部には事業所を一周できるよう整備している。内部では鯉を飼っている池が見える場やアニマルセラピーの一環として場を設け楽しめるようにしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項目			
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	0	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	0	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	0	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	0	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	0	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	0	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	0	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	0	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	0	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	0	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	0	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)